

緑化の推進



倶知安町げんきの森 森づくり実践・教養講座

北海道倶知安町



事業概要

「百年かけての森づくり」をテーマに、地域の森を次世代へ引き継ぐために、地域の人々の参加による森づくり活動と幼稚園児によるキノコの植菌体験学習を含む森づくり実践講座をげんきの森で実施するとともに、森づくりのための人づくり活動として専門家・学識者等を招いての森づくり教養講座を積雪期に倶知安風土館で実施する。

事業成果

平成3年からの100年計画で現在30年目となるが、継続されていることに大きな成果や意味があるものと考えられ

る。助成制度を活用させていただいたおかげで、さらなる森づくり活動における幅と参加の広がりが得られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・まだまだ百年の森の活動が地域の人々に知られていない。今以上の普及・啓発が必要ではないか。100年活動が続いたらこの森は地域の大きな宝物となるだろう。

参加者の声

- ・初めて枝打ちを体験した。木を育てるためにたくさんの方が尽力されていることを知り、大いに感謝している。また機会があれば参加したい。(札幌からの参加者)



幼稚園児のキノコ植菌体験



雪害防除のための枝打ち作業（集合写真）



馬搬実演、馬ぞり体験



森づくり教養講座の開催

実績とりまとめ

作業内容

間伐及び枝払い、
玉切り集積面積：1.2ha
間伐材の馬搬：
400m(片道)×10回程度
100年かけての森づくり：
7回

森づくり教養講座：4回
幼稚園による「百年の森」
の間伐材を使ったキノコ
の植菌体験：1回
環境にやさしい伝統的な
森づくりを学ぼう馬との
ふれあい体験：1回

参加者数

道内：368人
計：368人

緑のまなび事業 備前市立香登小学校緑化環境整備事業

岡山県備前市



事業概要

令和6年の岡山県での第74回全国植樹祭開催と学校創立150周年を記念して、子どもたちが安心・安全な学習活動が実施できるよう、学校内の樹木の環境整備を行うことを目的とする。主な活動は以下のとおり。①運動場の巨樹・老樹になった樹木の剪定、②学校中庭での記念植樹及び完成式典の開催。

事業成果

運動場周辺の樹木が多く、危険の優先度を勘案して実施した。巨樹・老樹など大木の剪定は、ボランティアでは作業が困難であり、また、予算も必要なことから整備が遅れている。運動場周辺の巨樹・老樹が剪定され、子どもたち

が安心して活動できるようになった。また、記念植樹として学校中庭にハナミズキを植栽した。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校の緑化環境整備を児童に説明することができ、また、花の咲く樹木を児童が記念に植えることで、すべての児童に緑への関心をもってもらえると思う。(先生)

参加者の声

- ・保護者等ではできなかった大木がきれいになって、学校も明るくなり、子どもも安心して遊べるようになり良かった。(保護者)
- ・少年隊の活動が学校の整備にも繋がり、これからも緑の大切さを体験させたい。(指導者)



運動場のサクラ剪定



大木の剪定



ハナミズキを記念植樹



完成式典

実績とりまとめ

作業内容

樹木剪定：サクラ、エノキ、アラカシ
記念植樹：ハナミズキ

「森と海を結ぶ・絆の森林づくりプロジェクト」事業

宮城県東松島市



事業概要

令和3年全国豊かな海づくり大会において東日本大震災からの復興を遂げた「みやぎの豊かな海」を県内外へ発信。加えて、令和7年全国育樹祭の本県開催が決定したことにより、森林の大切さや、復旧した海岸防災林の姿を通じて、震災の教訓を広く全国へ発信できる機会ができた。これらの大会を契機に、森と海、そして人々の絆をさらに深めていくため、沿岸養殖漁業の盛んな東松島市の浜市漁港に隣接し、東日本大震災の津波により被災した海岸防災林の再生を図り、水産業の環境改善を目指した森と海の関係者らが協働で植樹活動を実施した。

事業成果

毎年、異なる地域において、林業と漁業との関係者による協働での植樹活動を行うことで、より広く「森と海」の関わり、森も海も豊かにする森林づくりや海岸防災林の意義を関係者へ伝えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・県行政においても「みやぎ森と海の交流促進事業」として、沿岸域での森と海との協働活動を推進しており、連携することで相乗効果が期待される事業である。今後も「宮城県水産林政部」における水産サイドと林政サイドとの協働プロジェクトを推進するツールとして、取り組んでいきたい。(県水産林業政策室長)

参加者の声

- ・海岸防災林の役割を果たせるよう、元気いっぱいになってほしい。(60代漁業関係者)
- ・すくすく育って大きくなってもらい、塩害や津波などから生活を守ってもらいたい。(50代漁協運営委員)
- ・今後も林業と漁業の関係者による協働での植樹活動を促進することで、地域の観光資源でもある豊かな森と海を育み、その保全に努めていきたい。(50代自治体職員)



抵抗性クロマツの手入れ



抵抗性クロマツを植樹



植樹祭に参加したみなさん



植樹祭標柱を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
植付本数：303本

参加者数

県内：55人
計：55人

樹種

抵抗性クロマツ、ヤマザクラ

「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業

宮城県登米市、南三陸町



事業概要

緑とのふれあい等を通して、沿岸被害住民と山村住民の交流を図りながら、東日本大震災からの復興を誓うとともに森林づくりの重要性を普及する。

事業成果

登米市において、南三陸町の被災住民を招いて森林体験や震災語り部による交流会を実施できた。「市民参加の新たな森林づくり」植樹祭(登米市)では、小学校において、コロナとインフルエンザが流行したことから、高齢の南三陸町の被災住民との接触を回避するため、交流活動は行わず、分離開催として実施した。「海に見える命の森」植樹祭(南三陸町)では、登米市からの参加者との交流も行われ、参加者相互に心が和み、楽しいひと時を過ごすことができた。被災地住民参加者からは、コロナが明けて、外出する機会が増えつつある中で、このような、野外活動は貴重な取り組み

みであり、さらなる継続を望む声が大きかった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年交流活動の開催がインフルエンザの流行により、分離開催となったが、参加された被災者の方々に喜んでいただけたことが何よりである。来年は、交流活動ができるよう期待したい。(50代登米市担当課長)

参加者の声

- ・私たちが植えた苗木が立派に育って欲しい。(小学生女子)
- ・いろいろな動物たちが住める緑豊かな森になってほしい。(小学生男子)
- ・山に来て人と話し合えて交流を深められた。自然の中での森林体験で心を癒やされた。(70代女性)
- ・地元の森林イベントに参加し、国土緑化や森林の大切さを知り、頑張る気持ちの後押しとなった。今後もこのようなイベントを続けてほしい。(70代女性)



交流会で草木染めと震災語り部を実施(登米市)



「市民参加の新たな森林づくり」植樹祭(登米市)



どんぐりの播種活動(登米市)



「海に見える命の森」でツツジを植樹(南三陸町)

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1,030本
播種活動、森林体験、防災交流

参加者数

県内：160人
計：160人

樹種

カラマツ、スギ、ヤマツツジ

小支流流域を単位とする災害に強い森づくり

熊本県水上村



事業概要

斜面地の土砂崩れ及びそれに付随する倒木の発生を防ぐ植樹技法のモデルを「小支流流域」を単位として創り出す。活動は、〈鉾ノ尾地区〉①令和2年球磨川豪雨や台風等による土砂崩壊斜面地の現況調査。②「支流流域区分図」の作成。③縦断面図を作成し、刈払い・地拵え等の作業方法を検討。④現地での標高の計測・マーキングを行い、作業量と現地調達資材を検討。⑤地拵え・植樹を実施、ほか必要な整備。〈笹ノ尾頭地区〉①対象地の等高線を基準線とする植樹計画。②植樹対象地を小規模に区分し、昨年までの実績を基に区分ごとに名前を付与、植樹。③トイレ・休憩小屋整備予定地の刈払い、整備体制の組立。④湧水が貯留している場所へ稲の苗を試植、ほか必要な整備。

事業成果

昨年度の植樹活動に参加した高校、大学等の教官・学生の参加があり、この関係を持続する基礎固めが一步前進し

た。技術面は、急傾斜地を対象として試みた「等高線を基準線とする植樹計画技法（現地調査法、作図法等）」は、南稜高校の教師や林業実務経験者からの共感を得て、現地での試行が可能となった。この方法で参加者の作業分担、作業効率、斜面移動時の安全性・安心感の確保等に有効であることが実感でき、今後の作業計画を組み立てやすくなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回の活動は教員・生徒ともに貴重な経験となった。土砂崩れ防止効果の観察が今後重要だと思う。(高校教諭)
- ・自分が植えた苗木が獣害にあっけしめい悔しいが、何ができるかみんなで答えを見いだしたい。(小学校教諭)。

参加者の声

- ・この急斜面地での作業は、「生態系全体、環境の連鎖的仕組み」に気づき、考えるのに適している。(ジャーナリスト)
- ・植える苗木に、タケの名札（樹種と植えた人の名前を書く）を付けるのはとても良い。目印になる。(60代女性)



サクラの樹勢回復補助（鉾ノ尾地区）



等高線を確認し植樹（鉾ノ尾地区）



植樹と名札付け（笹ノ尾頭地区）



等高線に沿った地拵えと植樹（笹ノ尾頭地区）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.8ha
 植付本数：262本
 樹勢回復：8本
 下刈面積：3.7ha
 除伐面積：1.1ha
 間伐面積：0.7ha
 作業道：400m
 森林資源活用：
 シイタケ栽培のホダ木

参加者数

県内：86人
 県外：7人
 計：93人

樹種

クヌギ、マテバシイ、スダジイ、カエデ、カワツザクラ、アカシアほか

令和2年7月熊本豪雨復興支援事業

熊本県八代市、水俣市、津奈木町、球磨村



事業概要

令和2年7月熊本豪雨による被災地域の復興を支援するため、緑化及び間伐材を使った木製品（木製のプランター、ベンチ、木製遊具など）を提供する。これにより、豪雨の記憶を後世に残すとともに、地域住民や子どもたちの共同生活の充実を図り、緑の大切さや木のぬくもりを感じてもらう。

事業成果

令和4年度は、保育園等に木製プランター14個、ベンチ14台、積み木セット5個、丸太5本、切株100個を提供し、緑や木材による潤いを被災者に届けることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・新しく建て直した保育園には遊具等も少ないため、園児がたいへん喜んでた。(保育園園長)
- ・子どもの遊び場を充実させる上で木製品の提供は有意義である。(町教育委員会主幹)

参加者の声

- ・園児たちが楽しそうに遊んでいる様子を見ることができた。
- ・木製プランターに植物を植えて、少しでも児童の心が和むことを期待している。



積み木セット



園児に積み木セットを贈呈



小学校に提供された木製プランター



児童公園に提供されたベンチ

実績とりまとめ

作業内容

プランター：14個
ベンチ：14台
積み木：5セット
丸太：5本
切株：100個

参加者数

県内：75人
計：75人

間伐材の有効活用と森づくり調査報告事業

北海道富良野市



事業概要

ネイチャーポジティブ、TNFD、30by30など、2030年までに生物多様性の損失に歯止めをかけて回復軌道に乗せることが国際目標に掲げられる昨今において、森づくり活動は欠かせない事業となっている。森づくり活動+間伐材利用等の様々なイベントを通して、「森への理解」を深めるとともに、他地域への先駆的事例となるよう、以下のような活動を行う。①子どもたちを森に誘う「へそ森クラブ」活動を実施する。②元ゴルフ場跡地のフィールドに自分たちの手で穴を掘って木を植える。③森づくり活動の重要なフェーズである間伐の意味を知り、実際に間伐を行う。④企業を巻き込んだ森づくりイベントを実施する。

事業成果

富良野市の観光客受け入れ政策として「ワーケーション実証助成事業」を実施し、その助成を受ける条件として、「市内で環境活動に参加する」という項目を導入していただく

たおかげで、個人の植樹参加者数が増えた。今後も、「富良野に来たら木を植えて帰ろう」を合言葉に、植樹体験を日常化していきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・フィールド調査（水の流れ、植栽データ）をしっかり行い、計画的に植樹することをお勧めする。
- ・コロナ禍が明けて外国人観光客が戻ってくる可能性が高いので、英語対応ができるとう良い。

参加者の声

- ・自然の中で同じ空気を吸えて素晴らしい機会になった。ご準備、ご指導いただき心より感謝したい。（日ハムファイターズ担当者、50代男性）
- ・それぞれに皆が、いろいろな想いを胸に抱き、それぞれのハチドリが、行動を起こすことを期待している。（森づくりイベント参加企業トップ、60代男性）



小学生39人による植樹風景



中学生237人による植樹風景



高校192人による植樹風景



プロ野球チーム後援会45人による植樹風景

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.2ha
植付本数：2,115本

樹種

アカエゾマツ、ミズナラ、トドマツ、ヤチダモ、ヤマモミジほか

持続可能な（カーボンニュートラル）地域づくりプロジェクト

北海道弟子屈町



事業概要

事業実施場所である弟子屈は、ひがし北海道有数の観光地である。その主流はドライブ観光であり、自動車による長期移動によって排出されるCO₂（年間推定630万kg）を植樹（1本14kg）によってニュートラル化することをテーマに、植樹祭及び住民・子どもたち向けの学習会（木育教室）を開催する。

事業成果

前年度までは、そららの森プロジェクトとして、今年からはカーボンニュートラルをテーマに12年目となり、毎年どんぐりやクルミの実を苗畑に蒔き、成長した苗を移植するというサイクルを繰り返し、次へと繋がる活動を行っている。植樹範囲も年々広がってきており、参加者も地

域住民や子どもたち、障がい者、観光客らを含めて延べ540人を超え、森づくりの夢は順調に進んでいる。

事業をよく知る関係者の声

- ・2年ほど前よりコロナの状況により開催が不安であったが、無事開催できて良かった。
- ・次年度からは過去に植えた苗木のメンテナンスも含め、たくさんの方の団体に参加してもらいたい。

参加者の声

- ・天候にも恵まれ、気持ちよく植樹ができた。(30代男性)
- ・去年植えた木がちゃんと育っていてうれしかった。(20代男性)
- ・友だちと参加した。貴重な経験ができた。(40代女性)



植樹風景



植樹には子どもたちも参加



植樹後の集合写真



植え付ける苗

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.7ha
植付本数：320本

参加者数

道内：50人
計：50人

樹種

カラマツ、ヤマモミジ、ドロノキ、アカエゾマツ

第51回市民植樹祭

北海道苫小牧市



事業概要

昭和46年の当会発足時は、苫小牧市が発展していく中で、自然環境の厳しさもあり街路樹が育ちにくく、緑が少ない町であったため苫小牧市民への緑化啓発の一つとして市民植樹祭が開始された。それ以来毎年行っており、令和4年度で51回目を迎えた。(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止)

事業成果

会が創設されてからこれまでに、市民植樹祭などで4万8,658本の樹木を市内(公園や市有林など)に植樹した。緑が少なかった苫小牧市であったが、現在では北海道内の主要市の人口に対する街路樹本数は2位となっており、市民への緑化啓発が進んでいると考えている。

毎年開催することで、市民に緑化への関心を身近に感じ

てもらえた。また、シカによる食害を踏まえリュウキュウツツジを植栽した。リュウキュウツツジの葉には毛が生えているためシカが避けるとのこと。今回植栽した経過を観察することで、他の食害を受けている場所の植栽にも応用できると考える。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍で人数制限をしておの開催となったが、申し込みは定員を満たし、市民の関心の高さを感じた。(50代男性)

参加者の声

- ・苗木が大きくなって花を咲かせるのが待ち遠しい。未来の子どもたちに緑を残す取り組みを今後も続けたい。(50代男性)
- ・しっかり根をつけてきれいに咲いてほしい。(70代女性)



植樹祭開会式



苫小牧市長、企業社長ほかによる植樹



市民による植樹の様子



植樹された木々

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.03ha

植付本数：150本

参加者数

道内：50人

計：50人

樹種

リュウキュウツツジ

植林地と白神自然学校遊々の森の除間伐材の伐採・再利用事業

青森県鱒ヶ沢町



事業概要

白神自然学校遊々の森で広葉樹のブナを植えるために、除間伐作業をし、樹木の間を空け、樹間を広くすることで、太陽を森に入れる山の手入れを行う。除間伐した木材は製材所に運び、板に加工する。これらの実作業から森への理解を深め、木材がどのように山から搬出されて、加工されて利用されるかを学ぶ。

事業成果

令和4年8月に鱒ヶ沢町は線状降水帯の豪雨による災害が発生し、遊々の森に入ることが容易でなく、津軽森林管理署と連携し、令和5年度に入り、林道の倒木や土砂崩れの箇所土砂の撤去を行い、ようやく除間伐作業を実施することができた。除間伐した木材は鱒ヶ沢町の製材所に運び、タルキや自然学校の平板や雪囲い用の材にした。また、大学生12名が林業現場の機械化の学習や、植林地の苗木周辺の下刈り体験を行い、これらの実体験から森を理解し、木

材がどのように山から搬出されて、加工・利用されていくかを学ぶことができた。これはSDGsの「15.陸の豊かさも守ろう」にあたる。間伐を行い森の再生、循環を体験することで、林業の手入れの大切さを学んだ。

事業をよく知る関係者の声

- ・かかり木が多く、安全性について注意をして作業をしてもらいたいという状況であった。また、除伐材を奥から道路端にウインチで集材し、2tトラックに乗せ、運搬することができた。(森林管理署担当官)

参加者の声

- ・林業現場がイメージしていたものより、機械化されていることに驚いた。また、チェーンソーで伐倒している男性が若い人で、林業もこういう人達で行われていることを初めて知った。また、植林作業は一瞬だが、下刈り作業が5年間ぐらい続くと聞いて、そういう作業が大変だと思った。(大学生)



大学生の下刈り体験



大学生の除伐体験



大学生の林業現場視察



製材したスギの加工品

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：0.5ha
除間伐面積：0.6ha

参加者数

県内：15人
県外：22人
計：37人

ソメイヨシノ枯れ枝及びテング巣病の枝除去。歩きにくい探勝路等の整備

福島県喜多方市



事業概要

雄国山麓の自然保護・保全を図り、地域と連携し、資源を活用しながら地域の発展に寄与することを活動の目的とする。本事業による主な活動は次のとおり。①青少年の自然体験や環境学習のフィールドとして安全で快適な歩道整備・観察路の安全対策として砂利敷き、②市民の憩いの場・森林公園の桜の枯れ枝・テング巣病の除去作業、③子どものための樹木観察林の造成、④森のわんぱく自然塾の開催

事業成果

探勝路の整備として草刈りを行った。石もあり危険があったが、安全作業が確保され、砂利を敷いて歩きやすい歩道ができた。桜老木は枯れ木の伐倒、枯れ枝や病気感染枝

の除去作業を行った。樹木観察林予定地では植生調査や除伐作業を行った。また、親子が参加する、わんぱく自然塾を開催することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ボランティアでよく頑張っていることへの理解はあるが、そのことへの評価はこれからである。行政からの支援をいただけるよう強く働きかけを行っていく。

参加者の声

- ・わんぱく自然塾に参加した子どもたちも新しく整備された歩道を歩き感動していた。自然観察林の整備作業では今後の展開に夢を膨らませている。今後が楽しみ。



森林整備（草刈り）



枝の整枝作業を行う前の桜老木



わんぱく自然塾



トレッキング

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1.6ha
 除伐面積：0.2ha
 森のわんぱく自然塾、トレッキング

参加者数

県内：43人
 計：43人

「全国緑化行事発祥の地」の整備とフォーラムの開催

茨城県桜川市・筑波山林内



事業概要

桜川市から入山する筑波山中腹部には「全国緑化行事発祥の地」という林業遺産にも登録される重要な場所がある。当時の林業関係者が疲弊する日本の山林を憂い、第1回目の植樹祭が行われた地であり、現在の全国植樹祭へと継承されている。現状は、伐採適期を迎えながら以前植えられた針葉樹が放置されている山林が多い。現地の整備作業と同時にフォーラムを開催し、緑環境の重要性を啓発することを目的とする。

事業成果

午前、「発祥の地」石碑前の斜面が崩れかかっており、周囲にある風倒木を移動して、丸太階段を3段設置した。参加者全員で協力し、土留めの杭づくりなども行い、予定時間内に終了した。大変重要な場所で節目の作業ができた。

午後、桜川市真壁伝承館まかべホールにてフォーラムを開催。緑の安全保障会議ーいのちを守る緑の樹々と題し

て、6人のパネリストが登壇し、森、植樹、水、教育などの様々な方面から、問題提起や意見交換が行われた。約90年前に植樹の重要性を提唱、実践した先人の知恵と想いを、令和の時代に新たな形での植樹を提唱し、「発祥の地」の重要性を啓発できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・午前中の「発祥の地」での整備作業：風倒木を使用しての丸太階段づくりは、非常に良かった。(午後の登壇者の一人/この感想は多かった。)
- ・午後のフォーラムで森に関わる様々なことが聞けて良かった。(桜川市教育委員会関係者)

参加者の声

- ・「発祥の地」での整備作業：有意義な場所で、汗を流す作業で非常に面白かったし、非日常の活動が良かった。参加しないと見られない石碑なので、参加して本当に良かった。(参加申請フォームから参加した人)



風倒木を移動し階段材料として使用



崩れかかった斜面に階段づくり



完成した石碑前の階段



フォーラムの開催

実績とりまとめ

作業内容
山林整備、フォーラムの開催

参加者数
県内：99人
県外：27人
計：126人

渡良瀬川源流の荒廃地緑化事業

栃木県日光市足尾町



事業概要

銅山の煙害で荒廃した足尾の山々に木を植え、緑したたる森に還すとともに、自然環境を大切にすることを育むことを目的とする。主な活動は以下のとおり。①小学校等の体験植樹及びボランティア募集による植樹会の開催、②植樹後の下刈り等の管理作業、③荒れている植樹予定地の地盤改良工事。当会スタッフで作業し、技術的・体力的に困難な場合は外部委託する。

事業成果

今年度は6,482人が参加し、1万2,672本の苗木を植えた。これまで27年間では21万人が28万本を植えた。植樹活動へは栃木県内の企業の参加が増え、助成による取り組みのPRによりその後の管理作業への参加も得られるようになった。植樹は初めてだという人も多量中、木柵で階段状に整備し黒土を入れる地盤改良工事を行ったことで、安全に円滑に

植樹をすることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナにも負けずに活動を常々と続けられている。この間、木柵と黒土による土壌改良で、苗木が良く育つ研究実践も進み、毎月の作業デーや夏の草刈デーの取り組みと相まって、その成果は一段と進んでいる。一本一本の苗木に「足尾に緑を、渡良瀬に清流を」の願いを込めて植樹に取り組み、公害の原点足尾からの脱却を目指し頑張っていきたい。(元参議院議員、70代会員)

参加者の声

- ・想像していたよりも大きな規模で行われていて驚いた。大きく育った木があり、活動の歴史を感じた。(10代)
- ・毎年大勢の方の努力と協力で植樹ができることに感謝。少しずつ緑の森が広がり感無量。植えた木が大きくなり、昔の足尾に戻る日を楽しみに、来年も来たい。(70代)



春の植樹デー
(国による山腹工施工地にボランティアを募り植樹)



春の植樹デー(地盤改良を行った箇所を実施)



体験植樹
(植樹作業の前に紙芝居を使って歴史や植え方を説明)



体験植樹(毎年関東一円の多くの小学校が修学旅行の一環で訪れる)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.1ha
植付本数：1万2,672本
下刈面積：0.5ha

参加者数

県内：2,738人
県外：3,744人
計：6,482人

樹種

コナラ、クヌギほか

ヤマアジサイの森の清掃活動とボランティア育成講座

群馬県高崎市倉渕町



事業概要

森の活動をするボランティアが高齢化して、後継者の育成が必要になったため、高齢者でも参加できるボランティア活動を考え、ボランティア育成講座を行う。内容は次のとおり。①バスを借りて森までの足を確保し町からの参加者を増やす。②作業を楽に行えるようにするため粉砕機を借りて、刈り取った枝を粉砕して森に返す。③高齢であり動きが参加したいという問い合わせを受けて、いろいろな方が参加できるようにするため荷物番などの仕事をお願いして参加いただく。④大学生や中学生・小学生など若い世代の参加者に、森の活動で使う道具の使い方を指導する。

事業成果

今年度の成果としては大学に参加を呼び掛けたところ多くの参加があり、森の活動をする若い世代のボランティアを募ることができた。また、当会の若い会員の活躍もあり、

若い世代の活動となった。この活動を行うことにより、少しずつ地元地域にヤマアジサイの保護活動が浸透してきた。今後は地元の活動参加者を増やしたい。また、地元の学校にも積極的に声をかけていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・関係団体等からは、応援したい活動なので日程が合えば参加したい、と伺っている。当会は、土曜日を活動日としているので、イベントの日程も土曜日になるが、他の団体も活動日が土曜日なので活動日を検討することも考えたい。

参加者の声

- ・森の活動に初めて参加して、楽しい体験だった。(学生)
- ・森のボランティアの大切さがわかったように思う。(大学生)
- ・僕が将来活動を引っ張ります。(小学生)
- ・森に来て気分転換になり楽しかった。(一般)



参加者集合写真



枝を集めて、粉砕機にかける



粉砕したチップを森に撒く



森の見学

実績とりまとめ

作業内容
下刈面積：1.0ha

参加者数
県内：30人
計：30人

みんなの森づくりプロジェクト

山梨県大月市猿橋町周辺の里山



事業概要

本事業の拠点「みんなの家」周辺は、高齢化が進み森林整備ができる人たちがいないため、手つかずの森林が多く残っている。地域の森林を守るとともに、都市部では体験することのできない森林での活動を通して自然との共生や重要性に気づくことを目的として活動を実施する。主な活動は以下のとおり。①幼児を対象としたキャンプ、②幼児を対象にしたデイキャンプ、③当法人ボランティアスタッフが行う森林整備、④家族を対象としたデイキャンプ。

事業成果

近隣住民は自給自足の暮らしを実践しながら自然（里山、動物）と日常的に共生しており、本事業を通して自然の偉大さや自然と共生することの大切さに気付くことができた。近隣住民の方たちには、野菜収穫、里山探検、クラフトなどのアクティビティにもご協力いただき、様々な場面でも学び合う関係性が築けている。近隣住民の方たちから

地域の課題について伺い、また、地域の里山や自然を今後どのようにしていきたいのか具体的なアイデアをいただいた。そのアイデアを少しでも実現できるようスタッフで議論を重ね、森林整備を重ねることで地域の景観をより良くしたり、里山を開墾して畑を拡大したりと「みんなの家」周辺の環境をより良くできていると感じる。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動当初よりも古民家も周辺の山もきれいになっている。猪や野良猫も地域から減っていて、私たちも暮らしやすくなった。(地元住民、70代男性)

参加者の声

- ・昔は当たり前にあった空き地とか裏山が都市部の子どもたちには身近でなくなってしまったからこそ、こういった場所は価値があると思う。これからも活動に参加して協力したい。(ボランティアスタッフ、50代男性)



自然遊び



周辺の里山



参加した子どもたちの集合写真



みんなの家の周辺

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：5.0ha
間伐面積：2.0ha

参加者数

県外：96人
計：96人

屋久島いのちの森づくり植樹祭

鹿児島県屋久島町



事業概要

生命の源泉である森林の重要性について、植樹や間伐作業後に感じたことを書道の一字で表現することでより深く理解し、啓発することを目的とする。主な活動は、土壌の薄い狭隘地や浜辺などでの植樹、清掃。屋久島ではこれまで3回にわたり地元産苗木を植えた。また、環境書道展行事として森の重要性を伝えるミニフォーラムを開催する。

事業成果

①子どもたちが真剣に植樹する姿に家族も触発され、森林の重要性と植樹の楽しさを子どもと共有、②温暖化防止に向け、自分たちでできること、貢献できるものがあることを実感、③植樹作業を通じて、緑の募金について理解を深めた。

地元の連絡協議会の協力もあり、大雨の中でも無事に植樹を終えられた。コロナ禍で準備期間が少なく、また悪天候で説明が十分なされたとはいえず、雨対策の必要性を実感した。今回は東京都内の子どもが参加したが、地元児童との連携もできればと思う。

環境書道展では、会場入り口正面に屋久島植樹祭の写真パネルや、子どもたちが植樹作業などの後に感想や印象を一字書きしたものを掲示し、来場者に森の重要性を啓発することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹は植えるだけにとどまらず、長期的な見守り、管理が必要。管理体制を明確にし、植樹地の成長を見守ることも必要ではないか。(植樹指導担当者)。



ウミガメ保護の森づくり。森をつくることで車のライトから産卵のウミガメを守ることが目的



海辺に地元の木・ホルトノキを植栽



屋久島での体験を漢字一字で表現



環境書道展「いのちの木」では子どもたちが植樹作業後の一字書きを展示

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：120本
下刈面積：60㎡

参加者数

県内：3人
県外：22人
計：25人

樹種

ホルトノキ

国民参加による災害に強いめぐりの森づくり

神奈川県横須賀市・湘南国際村町



事業概要

三浦半島の中央に位置し、水源林として源流から支流の水質を保ち、トウキョウサンショウウオも生息していた神奈川県有地「湘南国際村めぐりの森」は、現在、バブル期に開発された跡地として荒廃しており、標高220～300mのなだらかな丘陵地帯でありながらススキやメドハギなどの河川の植生のような貧栄養な景観が続く。当該地にて2009年より神奈川県のコア事業として、植樹による土地本来の森の再生を実践する。

事業成果

本年度は、コロナ禍の人数制限の下、春と秋の定例植樹事業開催時の2日間とスピノフ植樹祭にて、649名が来場し、990㎡へ5,580本の潜在自然植生種を植樹し、植樹累計本数7万5,382本・2.15haの緑化に繋がった。

また、当法人のホームページが、(一社)全国林業改良普及協会主催の第56回林業関係広報コンクールにて、ホームページ部門の奨励賞を受賞した。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹する樹木の種類がとても多く、落葉樹なども含まれていて、地域特性や立地など、多くのことを考慮されているのがよく分かった。また、成長段階が見えるのもとても良い。(植樹祭来賓)

参加者の声

- ・いろいろな木々を植え、共生の森を築く大切さを教授いただいた。(60代)
- ・混植密植の植樹方法なども大変勉強になった。(30代)
- ・潜在自然植生理論の、その土地に元々あった植物を植える大切さを学んだ。(20代)



植樹祭。植樹の様子



植樹祭。混植・密植方式(宮脇方式)で実施



植樹祭での集合写真



植樹地(2022年植栽)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.0ha
 植付本数：5,580本
 下刈面積：1.02ha
 森林資源活用：120㎡

参加者数

県内：260人
 県外：389人
 計：649人

樹種

土地本来の自生の樹種

猿投山北西山麓の環境林整備

愛知県瀬戸市山路町、白坂町



事業概要

猿投山北西山麓において、健全で活力ある人工林の育成と環境林としての機能を向上させることを目的とする。活動内容として、「県有林やまじの森」、「日本山岳会所有地」、「東大演習林」において放置された人工林の間伐を行う。雑木林では定期的に除伐し、保健保安林として機能維持させる。併せて自然観察道の笹刈り・除伐・道路保全を行い、近隣住民・ハイカー・登山者などに森の恵みを楽しむことができるよう整備する。せと環境塾・なごや環境大学において一般応募者に森の手入れを体験してもらい、森の機能について学び、併せてSDGsについての教育を行う。

事業成果

人工林及び雑木林において当初の計画どおり作業終了することができた。また、自然観察道も笹刈り・除伐を行い、アジサイやヤマザクラ、ミツバツツジといった花咲く樹々

や落葉広葉樹の森として保全することができた。

幼稚園児を対象に実施した“森の探検隊”では間伐材を利用した遊具などで森に親んでもらった。イベントとして瀬戸市が主催している「せと環境塾」において、新たに「炭作り」も認定講座に認められ、行き場のない間伐材を有効活用しながら森に興味を持ってもらう動機付けとした。

事業をよく知る関係者の声

- ・瀬戸市環境課に届いた市民の声として、「観察道がきれいに草刈りしてある」、「植物のなまえを教えてもらえる」など生物多様性のある森に整備している活動に対してお褒めの言葉をいただいている。

参加者の声

- ・森の中で汗をかきながら作業することで、「ストレス」解消でき、森が「良くなっていく」姿をみると生きがいを感じる、体が動く間は続けていきたい。(会員)



森の手入れ体験



歩道わきの除伐



せと環境塾（花炭作り体験）



森の探検隊（記念撮影）

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.6ha
 間伐面積：0.5ha
 自然観察道整備：2.0km
 作業道整備：2.5km

参加者数

県内：777人
 計：777人

グリーンベイ OSAKA 海岸防災森を創る活動

大阪府堺市



事業概要

本事業の目的は、南海トラフ地震による大震災が予想される現在、継続した植樹活動を続け、海岸防災森を作ることである。東日本大震災の際に、海岸防災林が津波の第一波の衝撃波を確実に減衰したことが報告されており、本事業で造成しているグリーンベイ防災林も、堺市の津波浸水想定地域への津波の到達を遅らせる効果が期待される。

事業成果

2022年11月の植樹会では、事前にハンマーナイフによる除草を2,500㎡行い、アキニレ、ウバメガシ、エノキ、エゴノキなど14種類、各26本、合計364本を植樹した。2023年6月には草刈り会を行った。参加者はどちらも70名ほどであった。これまで5m四方の中心部に14本の苗木を植樹する混播方式という方法を用いているので、一定の空間を確保することで、間伐をしなくても木の成長が進んでいる。当初に植樹した苗木は10m超まで大きく育ってきている。久

しぶりの参加者の感想に、森になっていることへの驚きがある。参加者が毎年コツコツ植樹する活動の大切さを共有できるようになったかと思われる。

事業をよく知る関係者の声

- ・グループで参加したリピーターの40代の男性は、「除草作業についてはかなりきつめだったが、その分やりがいは感じられ、前回植えた苗木の成長を見るのがうれしく感じるようになった」と、また、今後の課題を聞くと、「よく考え、練られている活動だと思います」と評価している。

参加者の声

- ・家族でたのしく参加させていただいた。…第1回の植樹以来13～14年ぶりくらいの参加だったが、立派な森になっていて驚いた。(40代女性)
- ・堺市の工場地帯に森ができるとは思ってもいなかったの、子どもと一緒に参加すれば良かったと感じた。(30代男性)



植樹活動での集合写真



5m四方の中心部に14本の苗木を植樹する混播方式で植樹



植樹が終わりに近づいた現場



草刈りと植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2.5ha
植付本数：364本

参加者数

府内：70人
計：70人

樹種

アキニレ、ウバメガシほか14種

丹波平松の森づくり

兵庫県明石市、丹波市、宍粟市、姫路市



事業概要

住みよい丹波の住みよい地域で安全安心の森づくりのため、丹波市春日町平松区の森林愛好会と一体となり、ドングリを拾い、ドングリから苗木を育て、ドングリ植樹を通して地域の交流を図り、魅力ある森づくりを推進する活動を実践する。

事業成果

平成13年～令和元年までは揖保川流域を植樹地とし、毎年500～1,500本のドングリを植樹してきた。昨年からは丹波市春日町平松区という新天地での植樹活動をはじめ、昨年は200本、今年は160本の植樹を行った。新型コロナウイルスによる規制も緩和される中、丹波市春日町平松地区の住民や株主(会では1株500円の寄付で株主を募り、活動費に充ててい

る)と、ドングリの植樹を通して交流を図ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナの影響もあり、以前に比べ植樹会等のイベント参加者が減少している。今後は丹波市とより連携を深めつつ活動認知を広めていきたい。

参加者の声

- ・ドングリ拾いは、公園内で拾うので気軽に参加できる。植樹会は、遠方であるとともに山の中になるため、かなり気合を入れての参加になる。しかし、丹波平松地区の皆さまの暖かいおもてなしにふれることができ、その地区特産の物も購入できたため、気合をいれた甲斐があった。(会社員、40代)



植樹イベントでの集合写真



植樹の様子



植樹地整備事業(下刈り作業)



公園で拾ったドングリから苗を育てる

実績とりまとめ

作業内容
植付本数：160本

参加者数
県内：170人
計：170人

樹種
クヌギ

おおつか里山桜並木回廊事業

島根県松江市



事業概要

約60年前に溜池完工を期して植林された桜が、現在は枯渇雑木林と化している。本事業で桜並木を復元することを目的とする。植樹した桜の苗木の健全な生育環境管理や、溜池右岸部の里山区域を地域住民の新たなコミュニケーションの拠点となる環境整備を行う。

本事業を事業創成期の仕上げの年度と位置づけ、事業目的を達成するため、①桜の苗木の年間を通じた病虫害防止作業、②肥培管理・草刈り作業、③地域住民が四季を通じて豊かな心を育むのにふさわしい里山環境整備（ツツジ、モミジ等の低灌木の植栽）に着手する。

事業成果

本事業着手に先立ち行った現地調査により、溜池堤体部に雑木等が密生しており、防災上の問題が大きいことが判明。当地は現在、島根県のハザードマップに記載されているが、現地調査が発端となり、溜池改修計画を促進する一

助となった。

雑木等の伐採作業の遅れから、令和4年4、5月になって植樹した桜の苗木がそれ以前に植樹した桜の苗木に比較して、活着率が悪く、成長不良となる事態となったため、急遽補植作業を実施した。一方で、四季を通じて地域住民が楽しめる里山環境整備として植樹したツツジ、モミジが正常に活着し、令和5年4月末にはツツジの一斉開花の景観が得られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・少人数の高齢者中心の事業活動は限界で、植樹区域の今後の管理作業は早急に次世代へバトンタッチすべく努力すべき。

参加者の声

- ・子どもの頃、溜池周辺で遊んだ風景、満開の桜の元で家族・親戚で楽しんだ宴会が思い出される。往年の里山景観が復元されることを期待している。



桜の苗木の植樹参加者



植樹場所のオーガーによる穴掘り作業



桜の苗木根元の草刈り作業



昨秋植樹のツツジの開花状況

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.6ha
植付本数：386本

参加者数

県内：61人
計：61人

樹種

ツツジ、サクラ、モミジ、クヌギほか

荒廃竹林を伐採整備し緑豊かな森の再生事業

香川県丸亀市川西町



事業概要

ごみの投棄場所となっていた荒廃した竹林を整備し、多くの皆様の憩いの場所づくりと更には青少年の環境学習の場づくりとすることを目的とする。荒れた竹林とバラやかずらの雑木を伐採して、中央部にクスノキをはじめとする高木群と周囲には四季折々に咲く苗木を植樹、更に荒れた土地のガレキを撤去して花崗土を投入しての整地を行う。

事業成果

森林の中央部にあった雑木と竹林を整備した関係で南北140mに及ぶ森の再生場所の全貌が見え、美しい森の公園作りの形が整ってきた。東隣を通るウォーキングコースを歩く人たちが立ち寄ってくれることも多くなり、更に地域の皆さんの憩いの場所として活用され始めている。

事業をよく知る関係者の声

・土器川沿いの風景の美観を向上させ、地域の憩いの場と

しての再生だけでなく、環境保全やまちづくりの好事例として今後ますます注目される事業だと思う。地域の方たちが目的達成のために一つのことに取り組む姿勢、そして行動力は見習っていききたい。地域の皆様がいつでも立寄りいつまでも愛される公園になることを願っている。(隣接するショッピングセンター店長)

参加者の声

- ・女性8名で雑木林から始まり、草抜きや苗木の植樹そして水やりなど女性でもできる作業に参加し、今では季節ごとに咲く花を見ると心が和み、小鳥のさえずりとともに心が癒される。これからも自然を大切に见守っていききたい。(女性メンバー・60代)
- ・令和2年以來取り組み、仲間たちとともに流した汗は見事に天然の美となり、訪れる人たちを和ませてくれる。参加して良かった！これからもやるぞ！これが実感。(70代男性)



荒れた土地のガレキを撤去して拡張地の整備



花崗土を投入して植樹準備作業



小学生が参加した植樹作業



植樹作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：2ha
 植付本数：100本
 下刈面積：5ha
 除伐面積：2ha
 間伐面積：1.5ha

参加者数

県内：198人
 計：198人

樹種

クスノキほか

創造と想像の森づくりプロジェクト

福岡県古賀市



事業概要

木々の緑と水と芸術品にあふれる空間で子どもたちの心身の健全育成を目指すことを目的とする。主な活動は次のとおり。①小学校内に樹木12種・40本を植樹。見学通路やテーブル・イスを設置することで、休み時間や下校時に見に行ったり、座って絵を描いたり眺めたりして感受性を養える空間とする。②緑に包まれた「新しい居場所」の憩いの場とし、自然の中で（アルミ彫像を配置、見て・触れて感性を磨き）想像力と創造力を学び受ける場として、生徒・保護者のみならず校区内住民や広く市民や他県・学校にも紹介し、類似事業の他への展開も目指す。

事業成果

彫像作成者遺族と話をし、了解を得ながら作業を開始した。各種植樹やテーブル作成など初めてのことだらけであったが、少しずつ校庭がにぎやかになり、通路作成・テーブル・イスの設置により第一段階は概ね予定どおりの完成・

景観とすることができた。今後既存樹木へのツリーデッキ作成や井戸掘り～観察池の復興を計画。コミュニティ役員・歴代PTA役員や一般参加者など多数の協力で植樹と環境づくりができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・市長と教育長、学校長の了解を得て活動開始したが、実作業が遅れてしまった。（メンバー）
- ・歴代PTA役員中心のグループラインの募集で参加。作業は楽しかった。（歴代会長）

参加者の声

- ・早く樹々が大きくなって、第3校舎教室が木陰となれば子どもたちも喜ぶと思う。（教頭先生）
- ・樹木も楽しめるようにいろいろな種類を植えた。フェンス側に植えたサクラ6本も登下校や通行人の目を楽しませることだろう。（40代女性）



校庭での準備作業



彫像搬入



登下校路の脇にサクラを植樹



お披露目会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.04ha
植付本数：40本
下刈面積：0.04ha

参加者数

県内：30人
計：30人

樹種

サクラ、カエデほか

子ども達につなぐ阿蘇の緑と森環境整備事業

熊本県阿蘇市



事業概要

子どもたちが阿蘇の自然とふれあい、緑化推進と生物多様性の大切さを学びながら、森の保全活動を行うことを目的とする。主な活動は以下のとおり。①植物とふれあう遊びと学びの観察会（ネイチャーゲームを取り入れた活動）、②植樹及び自生している樹木等への二次元コード付き名板プレート設置、③「学びの森」での植樹活動。

事業成果

本事業を実施することで、現在、保育園で進めている「学びの森」計画において、具体的な事業展開することができた。子どもたちが自然への関心を持つことで創造性が育まれ、森林と環境との関わりなどを知ることなど、成長する上で自然体験がとても重要であることを、園児・保護者・関係者へ伝えることができた。また、参加した園児・保護者の方々の「心の変化」や「気づき」を感じることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・二次元コードを名板プレートに記載することで、大学教授指導の詳しい内容の表記が可能となり、専門的な薬効や用途・食べ方などの提案ができた。反省点として、山野の植物は花や実のなる時期も違うため、設置したタイミングでは、何も生育していない場所に見えることもあった。二次元コード利用での子どもや大人用プレートの活用法は多岐にわたり、発展の可能性は大きいと考えている。（観察会指導者）

参加者の声

- ・ネイチャーゲームで散策や遊びながら自由に学べる機会ができた。プレートがあれば再確認できるので学ぶ機会が増えた。（園児保護者）
- ・遊歩道近辺に、このように多くの有用植物があることを初めて知った。（園児保護者）



植物とふれあう遊びと学びの観察会



観察会の集合写真



植樹の様子



樹木等へ二次元コード付き名板を設置
(階段脇の四角のプレートが名板)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：4ha
植付本数：30本
名板設置、観察会

参加者数

県内：24人
計：24人

樹種

クロモジ

花の咲く上浦づくり事業

大分県佐伯市上浦地区



事業概要

廃校により未利用地となった学校のグラウンドを活用し、地域の交流拠点づくりと花木を活かした観光拠点づくりを目的に、地元小中学校の児童・生徒及び地域住民による植樹会を開催し、住民の手で観光地づくり、地域の交流拠点づくりを行う。

事業成果

未利用地を活用してジャカランダやカワツザクラ等の花木を植樹することにより、地域間の繋がり、住民相互のふれあい、地域コミュニティの再構築に繋がった。また、景観や環境が良くなり地域の美化や交流人口増加に向けた基盤整備に大きく寄与するものと期待できる。

これまで植樹してきた花木も季節ごとに花を咲かせ、将来の地域活性化に向け明るい展望を感じている。今後更なる充実を目指すべく、数年をかけて「花の咲く上浦づくりと

観光振興事業」を進め、多くの人で賑わう交流の場とした。また、ソフトイベント（ドックラン、オートキャンプ、サイクルツーリズムなど）を行うことで集客を図り、多くの方に利用してもらいたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・小中学校廃校後、地域が寂しく、賑わいを失っていたが、公園整備のおかげで地域が明るくなった感じを受ける。（地元区長）
- ・地域住民の憩いの場、交流人口の増加、地域の活性化の手段として活用することを期待する。（市長）

参加者の声

- ・開花が楽しみ。
- ・寂しかった場所に賑わいが出た。
- ・地域が明るくなって、うれしい。
- ・またお弁当持って来たい。



植樹会準備（客土搬入）



小中合同植樹会（植樹の様子）



地区植樹会（植樹の様子）



植樹会（集合写真）

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：257本

参加者数

県内：120人

計：120人

樹種

カワツザクラ、ジャカランダ、ソメイヨシノ、ツツジ、常緑樹ほか

片ヶ瀬さくらの杜公園づくり

大分県竹田市



事業概要

耕作放棄地にサクラ・ツバキを植えることで景観を良くし、地区民の絆を強くすることを目的とする。また、イノシシにより通行道路が掘られ、通行が困難になっている箇所について、安全な通行を確保できるようにする。

事業成果

- ①耕作放棄地にサクラ・ツバキを植樹することで、景観が良くなった。
- ②地区民の絆を深めることができた。
- ③小学生の参加が1名であったが、楽しそうに参加した。

事業をよく知る関係者の声

・取り組みに意義は感じるが、今後の管理が大変だろう。(当

地区在住の現場近くの方、工事を請け負った方、活動参加者)

・斜面での作業はきつかったけれど、これから5年後が楽しみである。コンサートには必ず来たい。(事業の参加者)

参加者の声

- ・とても楽しかった。また参加したい。(小学生)
- ・素晴らしい取り組みであるが、地区の方の参加が少ないのが残念。(参加者)
- ・大学教授の的確な教示があって素晴らしい。(参加者)
- ・あと5年したら素晴らしい公園になるだろう。(取材した新聞記者)



造成工事前の市道



重機による坂道の作成作業



サクラの木を植えた所



造成した杜に関する情報看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha

植付本数：65本

参加者数

県内：37人

計：37人

樹種

サクラ、ツバキほか

森林に学ぶ! ~森林と人の深いつながり~

鹿児島県始良市、霧島県、薩摩川内市、さつま町



事業概要

人の豊かな暮らしは、森林のもたらす恩恵や大切な働きによって支えられていることを次の事業の実施によって伝える。①林間学校、②海と森の繋がりでの学習、③ヒラタケ、キクラゲの栽培、④森の恵みを体験(タケノコ掘り体験と竹クラフト)、⑤竹パルプの製紙過程、⑥森林が作り出す豊かな水と水力発電を学ぶ。

事業成果

①林間学校で、木工体験として、木製プランターを作成し、花の苗を植栽した。また、木や竹を使って間伐材などの利活用を学んだ。②海と森の繋がりでの学習として、垂水海潟漁港では森林が豊かなら豊かな漁港が育つ、海は森の恋人であるなどの話を伺った。③エノキの大木を伐倒して、ヒラタケ、キクラゲを栽培し、今後の事業へ繋げるために学習会を行った。④タケノコ掘り体験と竹クラフトでは一輪挿しの作成と健康たけふみの作成を行った。⑤竹から生

まれる竹パルプの製紙過程を学んだ。⑥森林が作り出す豊かな水による水力発電を学ぶため鶴田ダムの見学と学習を行った。森林と人との深い繋がりを事業名として、親子参加型の林間学校では散策などを通じ森林との繋がりができた。森林と水の関係も理解してもらえた。

事業をよく知る関係者の声

- ・海と森の繋がりでの学習で漁港の豊かさを紹介してもらったのはありがたい。(漁協参事)
- ・バスツアーでは、車内での森の話が少ないようである。工夫することが必要ではないか。(バス乗務員)

参加者の声

- ・盛り沢山の企画で、非日常的なことを経験できて、親子ともども楽しめた。(林間学校参加者・40代女性)
- ・今まで考える機会がなかった、地球環境を守ることはとても大切だと思う。“森は海の恋人”が素敵。お互いできることは助け合ってほしい。(参加者・70代女性)



林間学校の木工体験でプランターづくり



エノキの大木にヒラタケ菌を植菌



竹クラフトでは「健康たけふみ」を制作



竹林整備

実績とりまとめ

作業内容
 下刈面積：0.6ha
 竹ベンチづくり、クラフト体験、昆虫観察、バスツアーほか

参加者数
 県内：196人
 計：196人